

通学路における危険箇所のマッピングとその空間的特徴 - つくば市N小学校を事例として -

Hazard mapping on school road and its spatial characteristics -A case study of elementary school in Tsukuba city-

王尾 和寿^{1*}, 温井 達也²

Kazuhiisa Ohbi^{1*}, NUKUI, Tatsuya²

¹ 筑波大学芸術系, ² 株式会社 プレイスメイキング研究所

¹ Faculty of Art and Design, University of Tsukuba, ² Placemaking Institute Inc.

近年、わが国では地域の安全、安心に関する関心が高まり、多くの小学校で防犯マップ、防災マップ等が作成されている。本研究で対象とした茨城県つくば市のN小学校では、児童とその保護者が共に通学路を歩きながら登校し、地域の安全・安心を考えるワークショップを開催している。本研究の目的は、そのワークショップを通じて、保護者により選定された危険箇所の空間的特徴を明らかにすることである。同ワークショップでは、交通、犯罪、災害に関する危険箇所とその選定理由を記入した108枚の地図を回収した。交通危険箇所は、交通量の多さや道路の狭さ、歩道が無い、などの特徴を有していた。また犯罪危険箇所は、周囲に民家がない、森や茂みがある、暗いなど、災害時危険箇所では崩れやすいブロック塀や民家の壁が特徴的であった。また犯罪危険箇所や災害時危険箇所は、建物密度や建物からの距離の影響を強く受けていた。

キーワード: ハザードマッピング, 小学校, つくば市, 空間的特徴, 通学路, 密度サーフェス

Keywords: hazard mapping, elementary school, Tsukuba city, spatial characteristics, school road, density surface